

## 令和5年2月定例教育委員会

- 開催日時 令和5年2月22日(水) 9時30分～11時09分
- 開催場所 教育委員室(県庁22階)
- 出席委員等  
教育長 森作 宜民  
教育長職務代理者 庄司 一子  
委員 内藤 學  
委員 川上 美智子  
委員 中田 俊之  
委員 市原 健一  
委員 中庭 陽子

※ 事務局出席者については、別紙のとおり

### ○ 議案

#### 1 専決報告

- 非公開 専決第12号 博物館法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例案に対する同意の専決について (文化課)
- 非公開 専決第13号 茨城県幼稚園型認定こども園、保育所型認定こども園及び地方裁量型認定こども園の認定要件に関する条例の一部を改正する条例案に対する同意の専決について (義務教育課)
- 非公開 専決第14号 就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律に基づき幼保連携型認定こども園の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例案に対する同意の専決について (義務教育課)

#### 2 議案

- 公開 第30号議案 令和4年度一般会計補正予算案に対する意見について (財務課)
- 公開 第31号議案 令和5年度一般会計予算案に対する意見について (財務課)
- 公開 第32号議案 茨城県教育職員免許状規則の一部改正について (教育改革課)
- 公開 第33号議案 「茨城県公立の小学校等の校長及び教員の資質の向上に関する指標」の改訂について (教育改革課)
- 非公開 第34号議案 教職員の人事について (教育改革課)

#### 3 協議

- 非公開 1 令和5年度教育庁等部課長級職員の人事に係る協議について (総務課)

※ 非公開の議案等については、会議録は公開されません。

## ○ 会議録

### 1 開 会

教育長から開会の宣言があり、非公開審議項目についての提案がなされ、各委員から了承されました。

### 2 議 事

#### 【公 開】

第 30 号議案 令和 4 年度茨城県一般会計補正予算案に対する同意について

( 財 務 課 長 ) 資料に基づき説明

#### 【主な質疑・意見等】

( 川 上 委 員 ) 少人数教育充実プラン推進費が大幅に減となっていますが、何か理由があるんですか。  
( 財 務 課 長 ) 実績による減です。

( 中 庭 委 員 ) 同じようにスクール・サポート・スタッフも勤務日数などの実績による減となっていますが、何か理由はあるのですか。  
( 総 務 課 長 ) 当初予算を計上する際に、通勤費として一律月額 12,000 円で計上しておりますが、勤務地の近くの者を雇用する機会が多いことと、この予算を使用して障害のある方を雇用しておるのですが、体調が優れないなど欠勤する機会が多く、実績による減となっております。

第 31 号議案 令和 5 年度一般会計予算案に対する意見について

( 財 務 課 長 ) 資料に基づき説明

#### 【主な質疑・意見等】

( 市 原 委 員 ) 予算の推移を拝見すると、令和元年度は教育費の割合は 22.2%で、令和 5 年度が 18.3%と毎年確実に割合が減っているようですが、特に何が減っているのですか。

( 財 務 課 長 ) まず、県予算の推移を見ますと、県予算額に増減はありますが、教育費の中で言いますと、教育費のうち職員給与費と退職手当、これが減っております。

給与費が減っている要因としては、児童生徒数の減に伴いまして、教職員定数が減っており、それに伴って予算減しております。

あとは職員の新陳代謝ということで、若返りが図られているということで、給与支給額が減になっているという部分、また退職者数が減になっております。

この期間中に減になったことによりまして、退職手当、これが減になっております。

ただ一方で一般行政費とか投資的経費、それぞれ増となっている部分があります。増となっている部分の主な要因としては、例えば県立学校先端技術活用教育推進事業ということで、ICT関係の事業が伸びているということです。

あと財務課関係で言うと、施設長寿命化が始まっております。そちらの長寿命化推進事業費の増等がありまして、増えているという部分で、人件

- 費自体は減っておりますけど、その他、一般行政費、投資的経費が伸びているというふうな状況になっているところでございます。
- (市原委員) 子どもたちの数が減って、それに伴って教職員の数が減って、それに伴って予算額が減ったというのは納得はできるんですけど、ただ全体でんどん教育費の割合が減ってくっていくのは、教育に対する熱意っていうのが、ちょっと感じられないような気がするんですね。
- これから茨城県をもっと先進的な地域として売り込むため、印象づけるためには、私はやはり教育が大事だと思っています。手前味噌になっていつも恐縮ですけども、つくば市は今、非常に人口が増えているんです。TXの影響ももちろんあるんですけども、やっぱりつくばの教育っていうのを若い方が非常に評価して、魅力を感じて移る方が非常に多いですね。ですので、教育というのは、人を呼び込むための付加価値として非常に大きな影響があると感じているので、もっと魅力的な事業をやっていたらと思います。
- それと同時に、視察に行くと各学校の老朽化が非常に激しくて、もう少し学校の環境整備にも力を入れていただければなど視察等を通じて感じたので、そのあたりもよろしく願います。
- (庄司委員) 関連してちょっと伺いたいですけど。先日ニュースを見ていましたら、つくば市の予算で7ページにあります運動部活動地域連携再構築事業を積極的に進めるということが表れていたのですが、市の予算と県の予算の関係はどのようになっているのですか。
- (保健体育課長) 資料6ページの「1中学校休日部活動の地域移行支援」をご覧くださいと、(1)のモデル市町村における実証事業委託等ということで、国が10分の10となっております。県としましては、この中でも特に市町村ですと「3中学校部活動指導員の配置」について、これについては国、県、市町村がそれぞれ3分の1ということになっておりますので、そこについての支援をしております。
- また中学校の休日部活動の地域移行ということについては、1(3)の人材バンクの設置というのがありますけれども、これについては国が3分の1、そして県が3分の2ということで、市町村の負担はございません。そのあたりで県としてはその人材バンクの設置を進めて、市町村の支援をしていくと。
- それ以外のところでは、市が独自に、予算を立てて取り組んでいるという状況があるかと思えます。
- (川上委員) 資料7ページの「フッ化物洗口推進関連事業」についてですが、本当に効果があるか、有効性に不安があって、取り入れるべきかどうかと聞いていたところですが、国ではなく県独自で始めるということでしょうか。
- (保健体育課長) フッ化物洗口につきましては、全国的な取り組みが行われておりまして、これまで取り組んでいなかったのが、茨城県と神奈川県だけでございます。
- そういう中でやはり先進的に取り組んでおります新潟県でありますとか、そういうところはやはり虫歯が非常に少ないという効果が出ているという状況がございますので、これについては本課としても進めていきたいと思っております。
- またその下に保健医療部がありますけれども、就学前施設でも行っておりますので、そこから継続してできるような形になればさらに効果がわかるのではないかと考えておりますので、検証ということもきちんと進めて参りたいと思っております。
- (川上委員) 茨城県が遅れていたんですね。
- (教育長) それで3年度から、モデル校を配置して取り組んでおります。
- (中庭委員) フリースクールについて伺いたします。令和5年度の当初予算額は令和4年度の当初予算から増額となっており、支援が手厚くなればと思っております。実際のフリースクールはどれくらいの数を想定しているのかお聞きしたいと思います。県内では不登校児童生徒数が増えているというデータがあったかと思いますが、どのような事業展開をお考えかお聞かせください。

- (義務教育課長) このフリースクールの連携推進事業につきましては、県内のフリースクールの運営費の補助を行っています。昨年度からスタートした事業ではあるんですが、昨年度が5施設、今年度は10施設に補助しております。来年度は補助の上限が100万円で、13施設まで補助できるような制度設計を考えております。
- また、フリースクールへの通所にあたり、経済的な支援が必要な保護者の方への支援につきましても、要件を準要保護まで緩和する方向での事業設計を進めております。
- (内藤委員) IBARAKI ドリーム・パス事業についてお伺いします。とても素晴らしい事業プランだと思います。私も第1回、第2回の審査員を務めさせていただいて、彼ら彼女らのその後の姿が気になっています。その後どのようなフォローをしているのか。また、素晴らしい研究内容が企業等で支援している例があるようですので、その後の情報提供もお願いいたします。フォローへの予算措置もお願いいたします。
- (生涯学習課長) コロナ禍でなかなか実現できておりませんが、昨年度からプレゼンテーション大会後に、ステップアップチャレンジにおいてプレゼンテーション大会で上位入賞チームなどによる企業の現場等の見学や別の発表の機会提供などの予算措置しており、継続的な支援に力を入れていきたいと思っております。
- (内藤委員) 第1回大会で最優秀賞に輝いた並木中等教育学校の柴沼 纏さんのおばあちゃんとのコミュニケーションツールの開発は素晴らしい内容で、プレゼンテーションも大学生のような素晴らしいプレゼンテーションだったと記憶しています。
- (生涯学習課長) 「あなたとしゃべりたいα」という、おばあちゃんとコミュニケーションを取るアプリを開発して、大会直後に兵庫県の保健所から詳しく聞かせて欲しいと問い合わせがありました。今はその活動は終わってしまったようなんですが、柴沼さん自体はまた別の違うものに発展して、そのアプリとはまた別のことにチャレンジしているようです。当時はまだ中等教育学校3年生でしたので、今高校2年生になって、違う活動など広げて活動しているという状況です。
- (教育長) 今回のプレゼンテーション大会では、昨年度入賞した勝田中等教育学校の2年目の発表を行いました。継続して取り組んでいる状況も発信できるような大会にしていこうと考えています。
- (中田委員) 私も昨年度の大会後に勝田中等教育学校の生徒たちの活動の支援を行ったので、ちょっとひいき目に見てしまうのですが、自分たちの活動を後輩たちに引き継いで、後輩たちがまた産業廃棄物を使った、今回はコーヒーカーズを使った取り組みをしていました。
- (教育長) 昨年度がさつまいもで、今年度はコーヒーでしたね。
- (中田委員) 入賞チームの賞金の使い道はどうなっているんですか。
- (生涯学習課長) 協賛企業さんから頂いた協賛金からグランプリには50万円提供しています。基本的には提案された活動の継続的な活動に使ってくださいとお渡ししています。
- (中田委員) 実際に高校3年生の生徒さんは活動が終わってしまいますよね。そういった場合などはどうされているんですか。
- (生涯学習課長) 先ほどお話のあったように後輩につなげていく学校もありますし、使い道は学校に委ねています。

第32号議案 茨城県教育職員免許状規則の一部改正について

(教育改革課長) 資料に基づき説明

【主な質疑・意見等】

(各委員) 特になし

第33号議案 「茨城県公立の小学校等の校長及び教員の資質の向上に関する指標」の改訂について  
(教育改革課長) 資料に基づき説明

【主な質疑・意見等】

(内藤委員) 資料の2ページの「2教員育成指標改訂の流れ(令和4年度～令和5年度以降)」の「■主な改訂の具体」の中にある「茨城らしさ〔特出し〕」とはどういったことですか。具体的にどこらへんに反映されたか教えてください。

(教育改革課長) 資料5ページの校長の指標ですと、これまで共通のものとして特記事項で整理していただく部分の校長部分を独立させているんですが、例えばですが、「①学校経営」のところの一つ目の□に「児童生徒や学校を取り巻く環境の変化を的確に捉え、法令や国・県・市町村の教育施策を踏まえた上で、教育の在り方を熟慮し、改革を果敢に行うことができる。」というように表現を加えさせていただいております。

また、例えば、「④人材育成及び普及監督」の三つ目の□に「…自ら模範を示すにとどまらず、教職員全員にコンプライアンス意識を定着させることができる。」といったことや、「⑤連携・協力体制の構築」の中では、一つ目の□に「特別な配慮を必要とする児童生徒に対して適切な指導を行えるよう、関係機関と連携・協力体制を構築するとともに、教職員に指導・助言することができる。」といったようなことを新たに追加させていただいております。

他には、探究的な学びにつきまして、共通の指標の中の7ページに記載のある「2児童生徒の主体的・対話的で深い学びを支える授業力」のところに、例えば、「(4)探求的な(課題解決重視の)学び・ICTの活用」というところで、採用時の姿、第1期、第2期、第3期、第4期と先生方が徐々に経験を積んでいくことによってステップアップする内容を記載させていただいたのですが、二つ目の□が第1期では、「児童生徒が疑問点を表明できる場面を設定することができる。」、第2期になると、「…試行錯誤できる場面を設定することができる。」、第3期では、「…児童生徒が自ら次なる課題を想起する授業を実践することができる。」、さらに、中堅、ベテランとなる第4期では、「…教員に指導・助言することができる。」というような形で、子どもたちの学びをちゃんと支援するように、恒久的に深く成長するような表現で、教員のステップアップを図っていくようなものを追加させていただきました。

(内藤委員) 関東近県の教育委員が集まる会議において色々な議論を重ねると、各県らしさという議題になるんですが、各県そんなに違いは感じないんです。それが悪いとは思ってなくて、きちんと言ったことを徹底するってことが茨城県らしさと思っています。ぜひ今お話あったところを徹底していただいて、実現していただきたいなと思います。それが本当の茨城県の力だと思っています。突拍子のないことをやるのが茨城県らしさではないと思っています。

(中庭委員) 教員がどういったときに、どのような力が必要とされるかっていうのが、非常に明確になって、とても先生方にとっては研修、研鑽していく中で、良い指標ができたと思います。

その中で今回校長の指標が新たに出てきたわけですが、今回の議案からはちょっと離れてしまうかもしれないんですが、県立高校の校長に対しては、小中学校とは違う状況ができていると思うんですね。こういうふうに研鑽して、校長になるような資質を身に付けようというモチベーションが少し削がれるような状況が、県立高校の中では起きているのではないだろうかということをお話を伺ったりはします。そういう中で、校長としてはこういう能力が必要なんです、こういう資質が必要なんですって示して

において、片や、公募で校長を採用する。そのあたりをどういうふうによく、整合性をつけていくのかってところをちょっとお聞きできればと思います。何か管理職になろうという意欲がちょっとなくなったじゃないかなというのをちょっと聞いたりしますので、そんなことにならないようにということで、先生方にはぜひいろんな夢を持って、教員としてのその生涯を、人生を歩んでいただきたいって思うんです。

(学校教育部長) そのあたりの整合性っていうか、どのように描いているのかっていうことを聞かせてください。  
例えば、一般の教員についても、特別免許状ですとか、スペシャリストっていうのがあり、正式な採用試験を受けてなる人とはまた違うというような構図があるわけです。

別枠での採用が始まったということは確かにあると思うんですけども、民間人の校長っていうのも基本的にはそれと変わらないと考えています。

(高校教育課長) 資料5ページ記載のとおり校長の指標が設けられましたけれども、これについては基本的には民間人校長であっても自己研鑽に努めるなんていうのは当たり前の話でありますし、共通の目標として事務局の方では作らせていただいております。

県立高校の校長ということですので、今年度高校教育課が行った校長先生とのやりとりも含めて、実態のお話をさせてください。

まず、今年度新たに導入したのが、春、秋、冬と年間3回全校長と私との面談を行いました。春の目標設定の面談と秋の進捗報告の面談と最後の評価の面談、全てオンラインでやらせていただきました。特に年度途中の掌握のところで、校長先生から生徒、教員のことや学校現場での悩みも含めていろんな意見を聞きながら、学校との対応に反映できるものは反映いたしました。

次に、公募で民間から副校長という形で、今年度配置している水戸一高、土浦一高、水海道一高については、当該校の校長と副校長に対して、私と人事担当課長補佐と再任用の校長経験者と一緒に年間4回、夏前、10月、12月に実施し、最後の評価面談は今週の月曜日から校長先生同席のもと、学校の運営も含めて次年度の目標設定の話をしています。

そういった中で、教育改革が進んでいる中ですから、学校の方でも悩み、課題っていうのは具体化していただいています。

先ほど中庭委員の方からありましたような校長になる意欲の部分も含めて、我々としてはできる限り少子化の中でなかなか生徒定員を集めることは厳しい状況になっている現状では、当然校長先生の方にかかる負荷というのも大きくなりますので、話を聞きながら、こちらからのお願いもきちんと説明責任を果たしながらやっていく必要があると考えておりますので、今年度の校長との対応、副校長との対応、教頭会との対応を総括した上で、来年度に向けては改善できるところを改善して臨んでいきたいというところではございます。

(中庭委員) ぜひ民間人の校長先生の良いところと現場から育ってきた校長先生の良いところの両方を上手く活用して、茨城県の高校の教育を充実させることが一番かなと思うんです。

ただ、高校の先生たちは駄目だ、学校経営があまり不得意ではないから民間人の方を採用して、学校を活性化するんだって言われているような印象を受けちゃったんじゃないかと思います。先生たちがぜひ夢を持って、校長になってこんな学校を作りたいと日々研さんできるような意識を持っていただけるようなメッセージを伝えていただければと思います。高校の管理職になりたいという人が、もしかするとここ何年か先には減ってしまうんじゃないかと思うところがありますので、ぜひそういった発信を現場へお願いします。

(教育長) 実際に今回の校長公募の仕組みで言いますと、公募ということですので、民間の方だけではなく、現職の教員も手を挙げていただくこともできます。

中庭委員からご指摘いただいたような、例えば教頭職であるとか、教員として勤務している方達に、こんな学校を作りたいって思いを持って手を挙げてもらって、公募の中で採用されるような仕組みになっています。実際に今、鉾田一高の飯山校長は、第1回の公募の際に教員から手を挙げてくれた方です。そういった方たちに私たちはメッセージを伝えなが

- ら、決して民間だけを取ろうとしているわけじゃないというところはちゃんと伝え、教員たちの意欲も引き出し、より良い学校づくりを進めてもらうようなことについては進めていきたいと思えます。
- (中庭委員) ぜひメッセージを出していただいて、先生方にも夢を持って学校経営をしたいといった先生が出てくるような前向きな環境ができるといいと思っております。
- (市原委員) この議案は、小学校だけの話ですか。
- (教育改革課長) 茨城県の任命権に係わることでありますので、小学校等ということで全校種含んでいます。
- (市原委員) 今、民間人の校長先生の採用の話がありましたけども、面接官を務めまして、最終的に合格者のうち1人が結局辞退してきたということで、非常に面接した人間としては憤りを感じています。
- (教育改革課長) この指標を見ると、非常に細かく定められており、民間人の校長先生の応募者がこれを皆しっかり読んで、理解して、応募してきたのかなって違和感があるんですけども、どうなんでしょうか。
- (市原委員) この指標は育成指標というものでありまして、新規採用者でありましたり、中堅、ベテラン教員でありましたり、校長にはこういった資質が必要なんですよということを整理させていただいているものです。
- (市原委員) 現場の教頭先生とか現場の教務主任の先生などはご覧にはもちろんなっただいて、将来的にこういう研修を積んでいく必要があるんだという認識はしてくださっていると思っております。
- (市原委員) 現場から上がってきた人と民間の方が応募してきた人との意識の違いってのがものすごくあったような気がします。
- (川上委員) 実際に民間人を積極的に登用しようとしながらも、採用後はこの指標を遵守しながら、学校運営をしていくわけですよね。であれば、指標を理解していない方を選んでいいのかと非常に疑問を感じたんです。
- (内藤委員) 今回新たに改訂して、細かく整理し直したんですよね。これから応募される方にはこういった資質が必要ですよと募集要項に入れるなどしてはいいのかなという気はします。
- (内藤委員) むしろ民間の先生には、こういうところではない個性や経験を求めて、現職の先生たちとの良い意味での化学反応を期待しているんですよね。この指標の全てを理解して応募する方を求めていたら応募者がいなくなると思います。民間人の方の個性を伸ばして、きちんと副校長、教頭がそれをフォローして新しい学校を作ってもらいたいですよね。
- (高校教育課長) 今年度これまで教育委員の皆様からいただいたご意見のところでは、教員がより公募に応募しやすい環境作りと、先ほど中庭委員からもありましたように、教員が意欲を持って自己研鑽できる環境づくりという部分をしっかりと整理をさせていただいた上で、要綱の整理はしていきたいと考えています。
- 実際に要綱の組み込み方とか、要綱の作り方のところが複雑になればなるほど、今度は違う方向にいつてしまう可能性もあるので、元々の校長公募のコンセプトに対して今一度整理はしたいとは思っています。検討して整理した内容については、改めて時間をいただいて、委員の皆様にご意見をいただきながら、最終的には来年度の要綱設定に持っていきたいと考えています。

【非公開】

専決第 12 号	博物館法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例案に対する同意の専決について
専決第 13 号	茨城県幼稚園型認定こども園，保育所型認定こども園及び地方裁量型認定こども園の認定要件に関する条例の一部を改正する条例案に対する同意の専決について
専決第 14 号	就学前の子どもに関する教育，保育等の総合的な提供の推進に関する法律に基づき幼保連携型認定こども園の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例案に対する同意の専決について
第 34 号議案	教職員の人事について
協議 1	令和 5 年度教育庁等部課長級職員の人事について

3 閉 会

教育長から閉会の宣言がなされました。

(別紙)

令和5年2月定例教育委員会 事務局職員出欠表

令和5年2月22日(水)

職名	氏名	出欠	代理者職氏名
総務企画部長	大谷 美恵子	○	
学校教育部長	秋本 光徳	○	
総務課長	木内 規雄	○	
教育企画監	鹿志村 泉	○	
財務課長	田崎 俊一	○	
生涯学習課長	市村 志保	○	
文化課長	宮崎 薫	○	
教育改革課長	内桶 博仁	○	
義務教育課長	田辺 光博	○	
高校教育課長	柳橋 常喜	○	
特別支援教育課長	戸祭 勝典	○	
保健体育課長	清水 秀一	○	